## （3）歴史的環境

本市が位置するところは、原始の時代から人の定住があったところです。遺跡の存在、文献、そして口承等によって、様々な歴史的な出来事が語り継がれています。ここでは、今に伝えられる主な歴史的な出来事を本市の歴史的変遷として紹介します。

### 1）原始（旧石器～古墳時代）

**①旧石器時代**

標高5～60ｍの丘陵・低台地上などから、二万年以上前の後期旧石器が30点以上発見されており、この頃から人々の暮らしが始まったことがわかります。特に上津荒木川の上・中流域、高良山北西麓から筑後川に向けての低台地上からの出土が多く見られます。

**②縄文時代**

耳納山地の西側には、多くの縄文遺跡が分布しています。これらは、自然堤防上や台地周辺の湧水地周辺に展開しています。中でも、正福寺遺跡（国分町）は、縄文時代後期の集落で、全国的にも有数のドングリ加工・貯蔵施設であったことが判明しています。ここから出土したアミカゴや直柄石斧は、類例の少ない貴重な史料として知られています。

また、筑後国府跡が位置する枝光台地上では、台地北東部にあたる上地区で、早期・前期の土器・石器とともに良好な包含層が確認され、生活面の発見が期待される場所です。また、上地区の南東300ｍに位置する朝妻地区では、後期の土坑・埋甕が発見され、「朝妻の清水」の湧出によって形成された井田川を中心に遺構が分布していると考えられます。

なお、市内の縄文遺跡から出土する土器や石器の中には、九州内外で広く流通するものや他地域の影響受けたものも見られ、人々の交流が盛んであったことを示しています。

**③弥生時代**

旗原遺跡（荒木町）など広川下流域からは早期に遡る土器が出土しており、弥生時代の開始とともに大陸や半島から稲作文化が伝わったことが推察されます。その後も海外との交流は続き、例えば、久保遺跡（城島町）からは、前期末～中期にかけての朝鮮系無文土器が出土しました。また、新府遺跡（東合川）では小銅鐸鋳型が発見され、金属器生産技術が伝えられことが判明しています。中期になると耳納山地西麓の台地上に比較的多くの集落が見られます。ヘボノ木遺跡（東合川）や二本木遺跡（御井町）では丹塗り土器を伴った焼失建物が多数検出され、建物廃絶時の祭祀行為を示すものとして注目されています。

後期から終末期には筑後川沿いに拠点的な集落と考えられる水分遺跡（田主丸町）、良積遺跡（北野町）、道蔵遺跡（大善寺町）が分布します。枝光台地上の古宮・大林地区で確認された集落もその一つで、長さ300ｍ以上に及ぶ大溝を検出しました。大溝の両側には100軒以上の竪穴建物群が広がり、掘立柱建物も検出されました。出土遺物には豊富な鉄製品や環有明海地域での交流を示す肥前型器台も出土しています。この他にも御蔵園地区、朝妻地区で同時代の遺構・遺物が確認されています。

**④古墳時代**

高良山麓は、市内でも最古級の古墳が営まれた地域で、方形の墳丘を持つ祇園山古墳（御井町）は、石棺内部から三角縁神獣鏡が出土したと伝えられます。この頃の集落としては、首長居館の可能性もある市ノ上東屋敷遺跡（合川町）などが著名です。市西部の三潴地域には、『日本書紀』にその名が見える水沼君の墓所とされる御塚・権現塚古墳（大善寺町）があります。同古墳からは新羅土器が出土し、大陸や半島との交渉に関わっていた可能性を示唆します。また、有明海沿岸地域との古墳文化の共通性を示す、装飾や石棺、初期横穴式石室などを有する古墳も多く、広域な地域豪族連合が形成されていたと思われます。6世紀前半にその盟主と仰がれた筑紫君磐井は、527年にヤマト王権と御井郡（御井町付近）で交戦し、翌年ついに敗北したことが、『日本書紀』などに記されています。磐井の乱後も当地方では、引き続き前方後円墳は築造されています。田主丸町石垣の田主丸大塚古墳は、墳長103ｍを測るが、当時としては全国でも4番目の墳丘規模を誇ります。

## 2）古代（飛鳥～平安時代）

**①飛鳥時代**

7世紀は激動の世紀と呼ばれ、中国を統一した唐が周辺諸国への軍事介入したことから、東アジア情勢が不安定化しました。朝鮮半島では唐と新羅が百済を滅ぼし、友好国百済を救済するため斎明天皇は出兵を決定し、朝倉宮（朝倉市）入りしました。663年の白村江の戦いで大敗北を喫したヤマト王権は、更なる国土防衛の必要性に迫られました。この頃、王権によって整備されたのが、神籠石をはじめとする朝鮮式山城です。本市においても、高良山神籠石（御井町）、上津土塁跡（上津町）、筑後国府跡前身官衙（合川町）は代表的な遺跡です。

また、『日本書紀』天武七年条に見られる「筑紫大地震」の震源が水縄断層系であったことが、山川前田遺跡（山川町）の発掘調査成果などから判明しています。なお同記事は、日本最古の地震記事として知られています。

**②奈良時代**

中央集権化を進める政府は、律令国家の成立に伴い地方の行政区分を行いました。地方支配の基本単位は国で、7世紀末に筑紫国から筑後国が分割されると、前身官衙跡地に筑後国府が設置されました。同時に、大宰府と九州各地の国府を結ぶ幹線道路である西海道が整備されました。この遺構も久留米市域では複数箇所で確認されています。8世紀はじめの大宰府の成立を受けて、筑後国府もⅡ期政庁が新造され東へ移転しました。このころ、国分寺建立の詔によって筑後国分寺と国分尼寺（国分町）も造営され、合川町から国分町にかけては、古代筑後国の政治・経済・文化の中心地として大きく発展することになりました。

**③平安時代**

天候不順による不作が続く中、筑後国府跡Ⅱ期政庁、筑後国分寺はじめ、高良山高隆寺の大改築など数多くの公共工事が実施されました。筑後国守に赴任した都朝臣御酉は、悪化した財政改革を行おうとしますが、元慶7年（883）、自分の部下らを含む新興勢力の富豪の輩によって殺害される事件が起こります。その舞台である国司館が、合川町の筑後国府跡で発

掘されています。

天慶２年（939）に勃発した藤原純友の乱によって、大宰府とともにⅡ期政庁も焼失したとされています。このため政庁は朝妻町に移転再建されますが、このⅢ期政庁の空間規模は他国に例が無いほど大規模なものであることが判明しています。また、乱のため焼失した神名帳に代わり作成された新神名帳の控えが高良大社に残されています。現存する日本最古の神名帳ですが、この中に、「玖留見神」の名が見え、これを久留米の地名起源とする説があります。

## ３）中世（鎌倉～安土桃山時代）

### ①鎌倉時代

筑後国在国司・押領使に任じられた草野氏が竹井城（草野町）に拠点を置き、城下町を整備していきます。同氏は古社寺だけでなく積極的に新興仏教勢力を保護しました。代表的なものに臨済宗千光寺や浄土宗善導寺（善導寺町）などの建立があります。元寇襲来の際も、草野氏は小船で蒙古軍と戦い、神代氏は筑後川を渡河する肥薩勢のために浮橋をかけるなど、筑後勢の活躍が知られます。

この時期、国府の所在地であった枝光台地上では、地元の有力者をはじめとして、新たな土地利用がなされていきます。葉山・天神木地区では、12 世紀以降に掘立柱建物や区画溝、道路跡などが相次いで営まれます。過去の調査では築地や土塁に囲まれた施設が 13 世紀前半まで維持され、その後は墓地としての土地利用がなされることが判明しています。

### ②室町時代

14 世紀の荘園関係文書『筑後鷹尾文書』中に「くるめ方」との記述があり、これが久留米の初見とされます。南北朝期には、筑後を制圧した征西将軍宮懐良親王が高良山に在陣し、毘沙門岳城や杉城が南朝方の拠点となりました。草野氏はこれ以降、南朝方に属し各地を転戦しています。正平 14 年(1359)に現在の宮ノ陣町から小郡市南部一帯を舞台に「大原の戦い」が勃発、戦に勝利した南朝方は大宰府入りし、征西府を樹立しました。その後、九州探題の今川了俊が九州入りすると状況が一変し、再び高良山に拠点を移しました。また、永正年間（1504 ～ 21）には、高良山の支城として笹原城（後の久留米城）が築造されています。

葉山・天神木地区で確認されていた居住域は、14 世紀以降にはその中心が北方の古宮地区へと移るようで、多くの区画溝が確認されています。また、井戸や屋敷墓とみられる土壙墓も確認され、14 世紀から 15 世紀後半の屋敷跡が存在した可能性があります。

一方、東方に目を転じると、立石地区及び上地区において、中世の遺構・遺物が多く発見されています。立石地区には一町四方を土塁で囲んだ区画施設が存在します。区画内部の状況は調査の進展を待たなければなりませんが、区画外部では、その東側を中心に 13 ～ 15 世紀にかけての大小多様な溝、井戸、粘土採掘坑、土坑などが営まれています。

### ③安土桃山時代

戦国時代には、久留米地域を含む筑後国は、主に豊後の大友氏の勢力下にありました。在地土豪は、派遣された代官の下に割拠しており、大きい勢力とはなりませんでした。大友氏

の勢力が衰退する時期によっては、周防の大内氏、肥前の竜造寺氏、薩摩の島津氏が侵入し、その勢力争いの場となっていました。しかし、天正 15 年（1587）には豊臣秀吉がついに九州を平定しました。国割により、久留米に入城したのは毛利秀包です。秀包はキリシタン大名として知られ、城下 2 ヶ所に教会を建設したといわれています。久留米市役所庁舎建設に伴う発掘調査では、聖堂と推定される建物遺構とキリシタン関連遺物が発見されています。

### 4）近世（江戸時代）

#### ①田中氏代

関ケ原の戦いの後、田中吉政が筑後 30 万石の太守に封じられました。吉政は柳川城を本城としましたが、久留米城には次子則政を配置し、両城間を結ぶ柳川往還を建設しました。また、城下町や道路交通網、河川・堤防の整備、新田開発などを積極的に進めました。しかし二代忠政には嫡子がなく、田中家は断絶しました。

#### ②有馬氏代

元和 7 年（1621）、丹波福知山から有馬豊氏が久留米に入城し、筑後北半 21 万石を領しました。以降、明治維新まで 11 代 250 年に渡って有馬氏の支配が続きます。豊氏は荒廃した久留米城の全面修築と拡張、城下町の拡張整備を進めました。城郭については、筑後川に面した小高い丘にある本丸を東から南向きに改造し、城の西・北・東の三方が筑後川や湿地帯に囲まれていたため、本丸から南方へ二ノ丸・三ノ丸・外郭を連ねた連郭式の構造としました。城の南面には侍屋敷群や街道入り口の寺町が取り巻き、防御を固めています。城と併行して、武家屋敷や町屋の建設も進められ、一応の完成を見たのは明暦元年（1655）頃です。

二代忠頼以降は、農業生産向上のため、灌漑施設築造に注力しました。一方、支配機構整備も進め、諸法令の発布や家臣団の再編、農村支配のための大庄屋制や税制も整備されました。

三代頼利、四代頼元代には、筑後川の治水も進捗し、寛文 3 年（1663）の大石・長野水道の完成を見ました。六代則維代の正徳 2 年（1712）にも、恵利堰・床島用水が完成しています。これにより収穫量は増大したものの、藩財政は悪化の一途をたどりました。家臣の知行制を俸禄制に変え、農村では年貢徴収の強化を行う「正徳の改革」を進めましたが、増税に端を発した享保一揆（1728）、七代頼僅代には、宝暦一揆（1754）など大規模一揆が発生しました。

一方で自らも関流算学の大家であった頼僅は、学問教育や武芸を振興しました。八代頼貴は藩校明善堂を開校して、米藩教学の拠点としました。九代頼徳は、学問武芸に加えて、大いに芸術を奨励しました。結果、文武芸術に秀でた人物を多く輩出しましたが、藩財政は逼迫し、晩年には倹約令を出しています。

このような危機的な状況の中、10 代頼永は「大倹令」を柱とする「弘化の改革」を推し進めましたが、治世わずか二年、志半ばで没しました。続く 11 代頼咸代は幕末の動乱期にあたり、藩政は多事多難を極め、藩内は大きく分裂、党派間で激しく藩政を争いました。主導権を握った開明派は殖産興業策を進め、これらの商業利益によって洋式兵備と洋式船の購入を進めて富国強兵を計りました。しかし、王政復古後の明治元年（1868）、尊攘派のクー

デターにより、旧政権は崩壊しました。新政権は維新政府側につき、戊辰戦争に出兵して功績をあげました。一方で、尊攘派青年らは反政府挙兵計画を練り、彼らを頼って久留米に潜入した山口藩脱徒を匿った罪が露見しました。藩知事有馬頼咸は謹慎、以下首謀者・関係者は処分され「明治四年久留米藩難事件」は鎮圧されました。この年、ついに廃藩置県となり、久留米藩は終焉を迎えました。久留米城は、明治6年（1873）1月の「廃城令」により正式に廃城となりました。

### 5）近代（明治～戦前）

明治4年（1871）の廃藩置県で久留米藩は久留米県となりますが、同年11月には柳川県・三池県と合併して三潴県が成立し、県庁は旧久留米藩御使者屋（現両替町公園）に設置されました。同9年（1876）には福岡県と合併、現在に至っています。

明治22年（1889）4月、他30市とともに市制施行され、旧城下を範囲として久留米市が誕生しました。また同年、旧京隈侍屋敷のほぼ中央部を縦断する形で九州鉄道が敷設され、翌年3月には、久留米停車場が開業しました。

日清戦争後の軍拡政策により、明治30年（1897）に陸軍歩兵48連隊が移駐したことを皮切りに、軍の関連施設が次々に建設され、久留米市は軍都としての側面を持つようになりました。

昭和20年(1945)8月11日の午前10時16分、久留米市街地は、沖縄の読谷村から飛び立った米陸軍第7航空軍のB24重爆撃機53機によって、無差別焼夷弾攻撃を受けました。投下された500ポンド焼夷弾は計636発15ｔにも上りました。死者214名以上、重軽傷者160人を出し、市街地の60～70パーセントが焼失し街は灰燼に帰しました。

### 6）現代（戦後～現在）

終戦を迎え、進駐した連合国により、市内各兵営に保管されていた武器類が接収されました。軍の残務の引継ぎが一段落すると、久留米師管区司令部は、解隊式を行い、軍都としての歴史は、一旦、幕を下ろしました。その後、軍の関連施設の跡地は学校や耕作地として利用されていきます。

昭和30年代に入り、日本の経済も立ち直りを見せ始め、いわゆる「岩戸景気」と呼ばれる好景気に入り、久留米市も赤字財政から脱しました。その間、昭和26年（1951）には、合川町、山川町、上津荒木村が久留米市に編入されています。

昭和40年代になると高度成長期に入り、昭和45年（1970）に九州縦貫高速自動車道の工事が始まり、昭和48年（1973）に開通しました。久留米インターチェンジに近い合川町東部では、工業団地の造成や地場産久留米が建てられ、かつての田園風景から様変わりして店舗や工場が集中する地域となっていきました。

平成17年（2005）に三井郡北野町、三潴郡三潴町、三潴郡城島町、浮羽郡田主丸町を編入し、人口が30万人を突破したことから、平成20年（2008）には九州初の県庁所在市以外の中核市となり、現在に至ります。

## （4）文化的環境

歴史があり、多くの文化人を輩出した本市では、先人の知恵と努力、加えて先人からの知恵と努力を受け継ぐ市民有志によって伝統的な製造業、年中行事、食文化等が受け継がれています。ここでは、その一端を本市の文化的環境として紹介します。

### 1）伝統的な製造業

本市には、江戸時代に井上伝が開発した織物「久留米絣」をはじめ、竹細工に漆を塗って仕上げる「籃胎漆器」、約 400 年の歴史がある「城島瓦」等の伝統工芸品があり、個人、協同組合、保存会などにより、伝統的な道具や技術が受け継がれています。これらは、現代的なニーズ等を踏まえ、新たな製品開発にも繋がっており、今も日常生活の中で使われ続けています。

写真　久留米絣

写真　籃胎漆器

写真　城島瓦

### 2）年中行事

1600 年余りの伝統があり、日本三大火祭りの一つに数えられる「大善寺玉垂宮の鬼夜」や、高良大社の秋の例大祭「高良山くんち」、水天宮の春と夏の「大祭」、水天宮夏大祭の時に開催される西日本最大級の「筑後川花火大会」、王子若宮八幡宮の五穀豊穣を祈願して花火を打ち上げる「花火動乱蜂」など、由緒ある寺社の歴史ある祭礼行事が保存会や同志会、振興会などの人々を中心に受け継がれています。

また、昭和 47 年（1972）に始まった「水の祭典久留米まつり」は、市民が主役のサマーフェスティバルで筑後地域最大の祭典となっています。

写真　大善寺玉垂宮の鬼夜

写真　高良山くんち

写真　水天宮春祭

写真　筑後川花火大会

写真　花火動乱蜂

写真　水の祭典久留米まつり

### 3）食文化

川と大地の幸に恵まれた本市は、昔から豊かな食文化を育んできました。「うなぎ」「エツ料理」などの伝統的な郷土料理や日本三大酒処を誇る「日本酒」、「久留米ラーメン」「久留米焼きとり」「筑後うどん」をはじめとするＢ級グルメ、「巨峰」や「柿」などのフルーツと、その種類は多彩でバラエティに富んでいます。

近年では、久留米の食を通したにぎわいづくりを目指し、「Ｂ級グルメの聖地（まち）・久留米」を全国に向けて発信しています。

写真　巨峰・柿

写真　日本酒

写真　エツ料理

写真　久留米ラーメン

写真　久留米焼きとり

写真　筑後うどん

## 4）市民活動

本市では、地域の歴史や文化を守り、活かす市民活動も活発です。

「かっぱ伝説」を活かしまちおこしに取り組む市民団体、ホタルの舞う清流と森の再生に取り組む市民団体、「柳坂曽根のハゼ並木」や「浅井の一本桜」等を守り活かす市民団体等、様々な市民団体が市民有志により結成され、市内各地で活躍しています。

写真　田主丸大塚古墳公園

写真　くじらの森

写真　柳坂曽根のハゼ並木

写真　みのう校区山苞まつり

写真　小学生によるくじらの森の清掃活動

写真　柳坂ハゼ祭り

## 5）芸術

本市には、美術や音楽、芸能等の様々な分野で多彩な人材を多数輩出するなど、古くから、芸術・文化の豊かな土壌に恵まれた土地柄です。特に美術の分野においては明治から大正時代にかけて、青木繁、坂本繁二郎といった近代日本美術を代表する洋画家を生み出しており、ブリヂストンの創業者である石橋正二郎により本市に寄贈された石橋美術館（現久留米市美術館）では、二人の作品をはじめとする貴重なコレクションの展示が行われ、多くの来館者を迎えています。

また、絵画・書道展などの美術展、合唱・吹奏楽・オーケストラなどの音楽公演といった、市民の文化芸術に関する活動も盛んです。平成 28 年（2016）に文化交流施設の久留米シティプラザが開館し、演劇や音楽、ダンスなどの芸術に触れる機会がより身近になっています。

写真　坂本繁二郎生家

写真　久留米市美術館

写真　久留米シティプラザ

## 6）郷土の人物

政治・軍事からスポーツに至るまで、多岐に渡る文化人を輩出していることも本市の大きな特徴です。

全国に知られる歴史上の人物から郷土にとってかけがえのない人物まで、多くの人物を輩出しています。様々な人物の活躍が、本市の歴史文化の土台となっています。

表　郷土の人物

| | 政治・軍事 | 思想・宗教 | 土木・建築 | 商業・産業 | ものづくり | 学問・医療 | 芸術・文化 | スポーツ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 原始 | | | | | | | | |
| | 水沼君 | 景行天皇 | | | | | | |
| | 筑紫君磐井 | | | | | | | |
| 古代 | 道君首名 | | | | | | | |
| | 葛井連大成 | | | | | | | |
| 中世 | | 神子栄尊 | | | | | | |
| | | 聖光上人 | | | | | | |
| | 懐良親王 | 金光上人 | | | | | | |
| | 草野氏 | | | | | | | |
| | 毛利秀包 | | | | | | | |
| 近世 | 田中吉政 | | | | | | | |
| | 有馬豊氏 | | 丹羽頼母 | | | | | |
| | 稲次壱岐 | | | | | 松下元芳 | 三谷等哲 | |
| | | | | | | 緒方春朔 | | |
| | | | 草野又六 | 手津屋正助 | | 有馬頼徸 | 塩足市山 | |
| | | | | | | 椛島石梁 | | |
| | | 寂源 | | | 坂本元蔵 | 船曳鉄門 | 有馬頼徳 | |
| | 稲次因幡 | 古月禅師 | | | | | | 小野川才助 |
| | 真木和泉守 | 高山彦九郎 | | | 井上伝 | | | |
| | 殉難十志士 | | | | 田中久重 | | | |
| | | | | | 大塚太蔵 | 西以三 | | 中村半助 |
| | | | | | 川崎峰次郎 | 矢野一貞 | | 加藤田平八郎 |
| 近代 | 林田守隆 | | | 福田忠太郎 | 小川トク | 梅野多喜蔵 | | 松崎浪四郎 |
| | | | | 越智通重 | | 工藤謙同 | | |
| | 内藤新吾 | | | | | 柘植善吾 | | |
| | 三谷有信 | | | | 赤司喜次郎 | 武田巌雄 | | |
| | | | 青木牛之助 | | | 戸田友次郎 | | |
| | | | 森尾茂助 | 倉田雲平 | | | | |
| | | | | 岩熊荘太郎 | | | | |
| | | | | 石橋徳次郎 | | | | |
| | | | | 日比翁助 | | 元田作之進 | | |
| | | | | 牛島謹爾 | | | | |
| | | | | 塚本榮太郎 | | 星野房子 | | |
| | 宗像小文太 | | | 岡幸三郎 | | | 青木繁 | |
| | 有馬頼寧 | | | | | 本間一郎 | 坂本繁二郎 | |
| | 倉富勇三郎 | | | | | | 吉田弘 | |
| | 石井光次郎 | | | | | | 高島野十郎 | |
| | | | | | 国武喜次郎 | 黒岩萬次郎 | 古賀春江 | |
| | | | | | | 厨幾太郎 | 豊田勝秋 | 納戸徳重 |
| | | | | 梅野実 | | | 藤田進 | |
| 現代 | | | | 上村政雄 | 松枝玉記 | | | 円谷幸吉 |
| | | | | 江島三郎 | | | 丸山豊 | |
| | | | 菊竹清訓 | 石橋正二郎 | | 本間四郎 | 中村八大 | |
| | | | | 倉田泰蔵 | | 宮入慶之助 | | |
| | | | | 石橋幹一郎 | | ハンター博士 | 松田聖子 | 中野浩一 |
| | | | | | | | 藤井フミヤ | |

## 2．久留米市の文化財

### （1）これまでの経緯

本市は、文化財を保存活用していく取組を推進しています。
以下、これまの経緯と文化財の概要を紹介します。

#### 1）文化財行政の設置

本市における文化財保護行政は、昭和 27 年（1952）の教育委員会の発足を経て、昭和 39 年（1964）に文化係が設けられたのが端緒となります。この時期は東海道新幹線や高速道路建設など、高度経済成長に伴う開発ラッシュに対応すべく、全国的にも文化財専門職の配置がようやく始まったころで、福岡県においても昭和 40 年（1965）ころに専門職員が初めて配置された時期にあたります。

昭和 47 年（1972）、それまでの文化係は文化財係となり、ここに組織として「文化財」の名が誕生しました。同年、久留米市文化財保護条例が施行され、文化財専門委員会が置かれました。平成 17 年（2005）に、文化財担当部局が教育委員会から市長部局に移り、今日に至っています。

#### 2）文化財の指定等

昭和 25 年（1950）の文化財保護法制定以前の本市では、明治 39 年（1906）に観興寺の『絹本著色観興寺延喜』が国指定有形文化財に指定されたのを端緒とし、明治 44 年（1911）に玉垂宮の『絹本著色玉垂宮延喜』、高良大社の『紙本墨書平家物語』、善導寺の『紺紙金泥観普賢経』などが同じく国指定有形文化財に指定されました。その後、大正年間にも引き続き、有形文化財・天然記念物・史跡が国史跡に指定されてきました。

文化財保護法制定以降は、昭和 26 年（1951）に浦山古墳が市内で初めて国の史跡として指定されたのを皮切りに、高良山神籠石（昭和 28 年（1953））、久留米絣（昭和 32 年（1957））などが相次いで指定されました。

平成 16 年（2004）段階では 145 件であったものが、平成 17 年（2005）2 月 5 日に久留米市および浮羽郡田主丸町、三井郡北野町、三潴郡三潴町・城島町の 1 市 4 町の合併を受け、一気に 177 件へと増加しました。文化財の管理面積や件数も増えた中で、国史跡の追加指定、市指定文化財の答申など、保存が必要と判断した文化財については、着実に指定し、保護を図っています。

#### 3）発掘調査

本市における最初の行政の手による発掘調査は、昭和 43 年（1968）、病院建設に先立って実施された石櫃山古墳の調査で、翌 44 年（1969）から 46 年（1971）にかけて行われた祇園山古墳など九州縦貫自動車道関係の調査は、県によって実施されています。

昭和 50 年（1975）、従来は嘱託職員で担っていた市域の発掘調査に対応すべく、文化財専門職員は初めて採用されました。その後も区画整理事業に伴う発掘調査に対応すべく、文

化財専門職員が相次いで配置されて体制が整えられるとともに、保存管理部門の担当も置かれ、指定文化財等の維持管理にも重点的に力が注がれていきました。

昭和 60 年（1985）代後半からのバブル期以降、圃場整備事業や区画整理事業など、大規模な公共事業に伴う調査に対応すべく、さらに文化財専門職員の充実が図られました。その後、道路建設や学校建設などの公共事業、共同住宅や店舗などの民間開発などに伴う発掘調査は、一向に減る兆しもなく、現在に至っています。

### 4）市史の編纂

本市では、昭和 7 年（1932）及び昭和 8 年（1933）刊行の『久留米市誌』（全 3 巻と別冊）、昭和 26 年（1951）刊行の『続久留米市誌』（全 2 巻）があります。この成果を引き継いで、昭和 51 年（1976）度から『久留米市史』の編纂を行い、「通史編」「民俗編」「年表・索引編」「資料編」の全 13 巻を刊行しました。また、市制九十周年記念として『目で見る久留米の歴史」と題した写真集も出版しています。

### 5）総合的把握（小学校区別）

小学校区ごとに文化財の総合的把握を目指した調査を行ってきました。当初は、埋蔵文化財包蔵地に着目した調査を行っていましたが、近年では、多様な文化財を対象とした調査となっています。調査結果は「文化財マップ」としてまとめ、広く公開しています。

### 6）歴史散歩

様々な文化財をテーマに沿って紹介するパンフレット「歴史散歩」を制作しています。パンフレットを用いて、現地を散歩して楽しめるような内容になっています。

### 7）歴史のまち　久留米　ストーリーシート

文化財をストーリーに関連付けて紹介したパンフレットである「歴史のまち　久留米　ストーリーシート」をシリーズで制作しています。市民団体や地域のボランティアガイドの方々と連携して制作、まちあるきイベントの実施などを行っています。

### 8）整備の経緯

昭和 58 年（1983）には博物館建設準備への第一歩として、地域の歴史にかかわる資料を保管する施設として文化財収蔵館が建設されました。

平成 5 年（1993）度の久留米市埋蔵文化財センターの完成、平成 22 年（2010）度には坂本繁二郎生家（5 月）、六ツ門図書館展示コーナー（10 月）、リニューアルされた有馬記念館（11 月）と、展示・公開施設が相次いでオープンし、資料の活用を図っています。

平成 27 年（2015）4 月には、整備を終えた田主丸大塚古墳がオープンし、史跡整備にも力を注いでいます。

## （2）文化財の概要

文化財の概要を指定・登録されるものと指定・登録されていないものに分けてご紹介します。

### 1）指定・登録されている文化財の概要

指定・登録されている文化財は、177 件を数えます。
国指定･登録物件が 28 件、県指定物件が 42 件、市指定物件にあっては 107 件を数えます。
指定・登録された文化財だけでも多種多様であることは、本市の大きな特徴です。

表　指定文化財の現状（令和元年（2019）5 月現在）

| 指定区分 | | 国 | 県 | 市 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 有形文化財 | 建造物 | 3 | 7 | 11 | 21 |
| | 絵画 | 3 | 3 | 5 | 11 |
| | 彫刻 | 4 | 3 | 11 | 18 |
| | 工芸品 | 2 | 3 | 4 | 9 |
| | 書跡 | 2 | | | 2 |
| | 典籍 | | | | |
| | 古文書 | | 2 | 6 | 8 |
| | 考古資料 | | 3 | 9 | 12 |
| | 歴史資料 | | | 3 | 3 |
| | 小　計 | 14 | 21 | 49 | 84 |
| 無形文化財 | | 1 | 1 | | 2 |
| 有形民俗文化財 | | | 5 | 26 | 31 |
| 無形民俗文化財 | | 1 | 2 | 7 | 10 |
| 史跡 | | 9 | 6 | 8 | 23 |
| 名勝 | | | | 1 | 1 |
| 天然記念物 | | 3 | 7 | 16 | 26 |
| 選定保存技術 | | | | 0 | |
| 合計 | | 28 | 42 | 107 | 177 |

## ①国指定・登録

| 指定区分 | | 名称 | 指定年月日 | 所在地 | 所有（管理）者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 有形文化財 | 建造物 | 高良大社本殿・幣殿・拝殿、大鳥居 | 昭和 47 年 5 月 15 日 | 御井町 1-1 | 高良大社 |
| | | 善導寺本堂、大門ほか | 昭和 63 年 12 月 19 日 | 善導寺町飯田 550 | 善導寺 |
| | | 有馬家霊屋　5 棟 | 平成 30 年 12 月 25 日 | 京町 209 番地 | 宗教法人　梅林寺 |
| | 絵画 | 絹本著色観興寺縁起 | 明治 39 年 4 月 14 日 | （京都国立博物館） | 観興寺 |
| | | 絹本著色玉垂宮縁起 | 明治 44 年 4 月 17 日 | （京都国立博物館） | 玉垂宮 |
| | | 絹本著色釈迦三尊像 | 大正 1 年 9 月 3 日 | （東京国立博物館） | 梅林寺 |
| | 彫刻 | 木造阿弥陀如来立像 | 大正 1 年 9 月 3 日 | 本町 8-4 | 無量寺 |
| | | 木造善導大師坐像 | 大正 1 年 9 月 3 日 | 善導寺町飯田 550 | 善導寺 |
| | | 木造大紹正宗国師坐像 | 大正 1 年 9 月 3 日 | 善導寺町飯田 550 | 善導寺 |
| | | 木造阿弥陀如来立像 | 大正 3 年 4 月 17 日 | 草野町草野 258 | 専念寺 |
| | 工芸品 | 刀（備前国長船住…銘） | 昭和 33 年 2 月 8 日 | 西町 | 個人 |
| | | 短刀（左筑州住銘） | 昭和 36 年 2 月 17 日 | 西町 | 個人 |
| | 書跡 | 紙本墨書平家物語 | 明治 44 年 4 月 17 日 | 御井町 1-1 | 高良大社 |
| | | 紺紙金泥観普賢経 | 明治 44 年 4 月 17 日 | 善導寺町飯田 550 | 善導寺 |
| 無形文化財 | | 久留米絣 | 昭和 32 年 4 月 25 日 | 北筑後一円 | 久留米絣技術保持者会 |
| 無形民俗文化財 | | 大善寺玉垂宮の鬼夜 | 平成 6 年 12 月 13 日 | 大善寺町宮本 1463-1 | 大善寺玉垂宮鬼夜保存会 |
| 史跡 | | 日輪寺古墳 | 大正 11 年 3 月 8 日 | 京町 279-1　日輪寺 | 日輪寺 ( 久留米市 ) |
| | | 御塚・権現塚古墳 | 昭和 6 年 10 月 21 日 | 大善寺町宮本 386-1 外 | 久留米市 |
| | | 高山彦九郎墓 | 昭和 17 年 7 月 21 日 | 寺町 57-1　遍照院 | 遍照院 |
| | | 下馬場古墳 | 昭和 19 年 11 月 7 日 | 草野町吉木 2263 外 | 久留米市 |
| | | 浦山古墳 | 昭和 26 年 6 月 9 日 | 上津町 1386 | 成田山（久留米市） |
| | | 高良山神籠石 | 昭和 28 年 11 月 14 日 | 御井町 1　外 | 久留米市 |
| | | 安国寺甕棺墓群 | 昭和 55 年 11 月 26 日 | 山川神代一丁目 2962-1 外 | 久留米市 |
| | | 筑後国府跡 | 平成 8 年 3 月 26 日 | 合川町 190-2 外 | （久留米市） |
| | | 田主丸古墳群 | 平成 14 年 3 月 19 日 | 田主丸町石垣ほか | （久留米市） |
| 天然記念物 | | カササギ生息地 | 大正 12 年 3 月 7 日 | 荒木町、大善寺町、安武町 | 福岡県 |
| | | 高良山のモウソウキンメイチク林 | 昭和 49 年 11 月 25 日 | 御井町 1-1 | 高良大社 |
| | | 水縄断層 | 平成 9 年 7 月 28 日 | 山川町 135-3 外 | 久留米市 |
| 登録文化財 | 有形文化財建造物 | 草野歴史資料館（旧草野銀行本店） | 平成 11 年 3 月 12 日 | 草野町草野 411-1 | 久留米市 |
| | | 山辺道文化館（旧中野病院診療棟） | 平成 11 年 3 月 12 日 | 草野町草野 487-1 | 久留米市 |
| | | 山辺道文化館（旧中野病院倉庫） | 平成 11 年 3 月 12 日 | 草野町草野 487-1 | 久留米市 |
| | | 草野歴史資料館（旧草野銀行本店）門 | 平成 11 年 7 月 19 日 | 草野町草野 411-1 | 久留米市 |
| | | 旧三井寺ポンプ所及び変電所 | 平成 20 年 7 月 8 日 | 三潴町高三潴字三井寺 1101-7 | 筑後川土地改良区 |
| | | 日本福音ルーテル久留米教会礼拝堂 | 令和元年 9 月 10 日 | 日吉町 16-3 | 宗教法人日本福音ルーテル教会 |

## ②県指定

| 種別 | | 名称 | 指定年月日 | 所在地 | 所有（管理）者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 有形文化財 | 建造物 | 須佐能袁神社本殿、拝殿及び楼門 | 昭和 32 年 4 月 23 日 | 草野町草野 443 | 宗教法人　須佐能袁神社 |
| | | 鹿毛家住宅主屋　表門　蔵　井戸小屋<br>附　財産目録　明治三七年十一月銘<br>のあるもの | 平成 1 年 8 月 26 日 | 草野町草野 405-1 | 個人 |
| | | 石浦大橋 | 平成 14 年 4 月 5 日 | 大橋町合楽 1082 | 久留米市 |
| | | 高良山御手洗橋 | 平成 14 年 4 月 5 日 | 御井町 206-3 | 宗教法人　高良大社 |
| | | 上野家住宅御成間<br>附文久 4 年、明治 38 年家相図 | 平成 16 年 2 月 18 日 | 山本町豊田 1755-1 | 個人 |
| | | 善導寺経蔵 | 平成 17 年 2 月 23 日 | 善導寺町飯田 550 | 宗教法人　善導寺 |
| | | 北野天満宮石造鳥居 | 昭和 37 年 7 月 26 日 | 北野町中 3267 | 宗教法人　天満神社 |
| | 絵画 | 紙本著色本朝祖師伝絵詞 | 昭和 34 年 3 月 31 日 | 善導寺町飯田 550 | 宗教法人　善導寺 |
| | | 絹本著色高良大社縁起 | 昭和 50 年 8 月 14 日 | 御井町 1-1 | 宗教法人　高良大社 |
| | | 筑後國北野天神縁起 | 昭和 37 年 7 月 26 日 | 北野町中 3267 | 宗教法人　天満神社 |
| | 彫刻 | 木造釈迦如来坐像 | 昭和 33 年 11 月 13 日 | 山川神代 1 丁目 5-21 | 宗教法人　安国寺 |
| | | 木造神子栄尊坐像 | 昭和 53 年 3 月 25 日 | 大善寺町夜明 1095 | 宗教法人　朝日寺 |
| | | 木造毘沙門天立像 | 平成 11 年 3 月 19 日 | 田主丸町石垣 275 | 宗教法人　観音寺 |
| | 工芸品 | 梵鐘 | 昭和 32 年 12 月 20 日 | 山本町豊田 2287 | 宗教法人　千光寺 |
| | | 梵鐘 | 昭和 33 年 11 月 13 日 | 善導寺町飯田 550 | 宗教法人　善導寺 |
| | | 銅製鰐口 | 昭和 37 年 4 月 19 日 | 北野町中 3267 | 宗教法人　天満神社 |
| | 古文書 | 高良大社所蔵文書 | 昭和 50 年 8 月 14 日 | 御井町 1-1 | 宗教法人　高良大社 |
| | | 福聚寺所蔵文書 | 昭和 56 年 3 月 5 日 | 合川町 2-1 | 宗教法人　福聚寺 |
| | 考古資料 | 石人 | 昭和 34 年 3 月 31 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米文化財収蔵館 | 久留米市 |
| | | 地蔵来迎図板碑 | 昭和 33 年 4 月 3 日 | 宮ノ陣町宮瀬 66 | 宗教法人　国分寺 |
| | | 法林寺宝筐印塔 | 昭和 52 年 4 月 9 日 | 城島町下青木 543 | 宗教法人　法林寺 |
| 無形文化財 | | 久留米絣織締 | 昭和 37 年 2 月 20 日 | 八女郡広川町 | （財）久留米絣技術保存会 |
| | | | | 八女郡広川町新代 432 | （財）久留米絣技術保存会 |
| 無形民俗文化財 | | 動乱蜂 | 昭和 31 年 1 月 19 日 | 山川町 569 | 花火動乱蜂保存会 |
| | | 北野天満神社神幸行事 | 昭和 51 年 4 月 24 日 | 北野町中 3267 | 宗教法人　天満神社 |
| 有形民俗文化財 | | 久留米絣いざり機 | 昭和 30 年 3 月 12 日 | 東合川 5 丁目 8-5 地場産業振<br>興センター内 | （財）久留米絣技術保存会 |
| | | 石造青面金剛像 | 昭和 37 年 2 月 20 日 | 城南町 4-2 | 宗教法人　日吉神社 |
| | | 石造宝筐印塔 | 昭和 37 年 7 月 26 日 | 京町 212 | 宗教法人　法泉寺 |
| | | 輪蔵　附経蔵 | 昭和 46 年 2 月 18 日 | 田主丸町菅原 1415 | 宗教法人　伯東寺 |
| | | 合川のあげ舟 | 平成 22 年 3 月 24 日 | 合川町 471-1　合川小学校 | 久留米市 |
| 史跡 | | 前畑古墳 | 昭和 38 年 1 月 16 日 | 草野町草野 504 | 久留米市 |
| | | 発心城跡 | 昭和 48 年 4 月 19 日 | 草野町草野 1085-1 外 | 久留米市 |
| | | | | 八女市上陽町下横山 1671-3<br>付近 | 八女市 |
| | | 祇園山古墳 | 昭和 53 年 3 月 25 日 | 御井町 299　外 | 道路公団（久留米市） |
| | | 久留米城跡 | 昭和 58 年 3 月 19 日 | 篠山町 444　外 11 筆 | 篠山神社 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 史跡 | 森部平原古墳群 | 平成 4 年 9 月 2 日 | 田主丸町森部地内 | 東部財産区（久留米市） |
| | 市ノ上東屋敷遺跡 | 平成 17 年 2 月 23 日 | 合川町東屋敷 1853-1 ほか | 久留米市 |
| 天然記念物 | 善導寺の大クス | 昭和 33 年 10 月 29 日 | 善導寺町飯田 550 | 宗教法人　善導寺 |
| | 高良大社の樟樹 | 昭和 39 年 5 月 7 日 | 御井町 1-1 | 宗教法人　高良大社 |
| | 柳坂曽根の櫨並木 | 昭和 39 年 5 月 7 日 | 山本町豊田 4229 外 | 久留米市 |
| | 善導寺の菩提樹 | 昭和 39 年 5 月 7 日 | 善導寺町飯田 550 | 宗教法人　善導寺 |
| | 長岩山のサザンカ自生地 | 昭和 60 年 5 月 28 日 | 草野町吉木字長岩 2730 | 吉木東生産森林組合 |
| | 筥崎八幡宮の大イチョウ | 昭和 61 年 8 月 28 日 | 大橋町蜷川 1012 | 宗教法人　筥崎八幡宮 |
| | 北野天満宮の大樟 | 昭和 33 年 11 月 13 日 | 北野町中 3267 | 宗教法人　天満神社 |

## ③市指定

| 種別 | | 名称 | 指定年月日 | 所在地 | 所有（管理）者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 有形文化財 | 建造物 | 八幡神社拝殿（伝 明静院本堂） | 昭和 57 年 5 月 25 日 | 安武町安武本 637 | 八幡神社 |
| | | 大善寺旧庫裡 | 昭和 58 年 6 月 24 日 | 大善寺町宮本 1460-1 | 久留米市 |
| | | 雪の聖母聖堂 | 昭和 62 年 2 月 21 日 | 津福本町字草場 252-1 | 雪の聖母会 |
| | | 寿本寺山門 | 平成 5 年 6 月 22 日 | 草野町草野 397-1 | 寿本寺 |
| | | 五穀神社の石橋 | 平成 12 年 2 月 24 日 | 通外町 58-1 | 五穀神社 |
| | | 本泰寺の山門 | 平成 12 年 2 月 24 日 | 寺町 4-1 | 本泰寺 |
| | | 旧三島家長屋門 | 平成 13 年 7 月 23 日 | 篠山町 270　篠山小学校内 | 久留米市 |
| | | 坂本繁二郎生家 | 平成 15 年 7 月 28 日 | 京町 224 | 久留米市 |
| | | 城島天満宮の石造鳥居 | 平成 9 年 10 月 1 日 | 城島町城島 323 | 城島天満宮 |
| | | 大善寺玉垂宮の石造鳥居 | 平成 19 年 8 月 20 日 | 大善寺町宮本 1463 | 大善寺玉垂宮 |
| | | 石垣神社の石造鳥居<br>附新宮社記録 | 平成 19 年 8 月 20 日 | 田主丸町石垣 68-1 | 石垣神社 |
| | 彫刻 | 木造釈迦如来坐像 | 平成 5 年 6 月 22 日 | 善導寺町飯田 550 | 善導寺 |
| | | 木造四天王立像 | 平成 5 年 6 月 22 日 | 善導寺町飯田 550 | 善導寺 |
| | | 木造宝冠阿弥陀如来坐像 | 平成 5 年 6 月 22 日 | 善導寺町飯田 550 | 善導寺 |
| | | 木造阿弥陀如来坐像 | 平成 5 年 6 月 22 日 | 善導寺町飯田 550 | 善導寺 |
| | | 木造聖観音立像 | 平成 5 年 6 月 22 日 | 大善寺町夜明 1095 | 朝日寺 |
| | | 木造不空羂索観音立像 | 平成 5 年 6 月 22 日 | 大善寺町夜明 1095 | 朝日寺 |
| | | 木造十一面観音立像 | 平成 5 年 6 月 22 日 | 大善寺町夜明 1095 | 朝日寺 |
| | | 木造薬師如来坐像 | 平成 7 年 4 月 24 日 | 京町 209 | 梅林寺 |
| | | 木造如意輪観音坐像 | 平成 7 年 4 月 24 日 | 京町 209 | 梅林寺 |
| | | 木造如来形坐像 | 平成 7 年 4 月 24 日 | 京町 209 | 梅林寺 |
| | | 木造如意輪観音坐像 | 平成 11 年 3 月 15 日 | 田主丸町牧 1212<br>牧八幡宮境内 | 牧区 |
| | 絵画 | 紙本著色若宮八幡宮縁起 | 昭和 49 年 11 月 1 日 | 草野町吉木 2363 | 若宮八幡宮 |
| | | 麻・絹本著色地蔵十王図 | 平成 5 年 6 月 22 日 | 善導寺町飯田 550 | 善導寺 |
| | | 絹本著色楊柳観音図 | 平成 7 年 4 月 24 日 | 京町 209 | 梅林寺 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 有形文化財 | 絵画 | 久留米祇園祭礼図 | 平成 13 年 3 月 27 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米文化財収蔵館 | 久留米市 |
| | | 床島堰築造絵図 | 平成 5 年 11 月 17 日 | 北野町金島 457（専称寺） | 山本善龍 |
| | 工芸品 | 臺子（盛徳院様没後御寄附） | 昭和 55 年 5 月 22 日 | 合川町 2-1 | 福聚寺 |
| | | 古月禅師関係金工品 | 昭和 55 年 5 月 22 日 | 合川町 2-1 | 福聚寺 |
| | | 三具足 | 昭和 55 年 5 月 22 日 | 合川町 2-1 | 福聚寺 |
| | | 唐金製燈籠 | 昭和 55 年 5 月 22 日 | 合川町 2-1 | 福聚寺 |
| | 古文書 | 福聚寺文書 | 昭和 55 年 5 月 22 日 | 合川町 2-1 | 福聚寺 |
| | | 大善寺玉垂宮文書 | 平成 10 年 7 月 29 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米文化財収蔵館 | 玉垂宮 |
| | | 御船家文書 | 平成 10 年 7 月 29 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米文化財収蔵館 | 個人 |
| | | 隈家文書 | 平成 10 年 7 月 29 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米文化財収蔵館 | 個人 |
| | | 梅津家文書 | 平成 10 年 7 月 29 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米文化財収蔵館 | 玉垂宮 |
| | | 小川区有中世文書 19 点　附「小川鏡御影覚附並大友家文書」1 点 | 平成 29 年 2 月 13 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米文化財収蔵館 | 小川区 |
| | 考古資料 | 人物埴輪 | 昭和 49 年 11 月 1 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米市埋蔵文化財センター | 久留米市 |
| | | 永勝寺の古瓦 | 平成 12 年 2 月 24 日 | 山本町豊田 2155 | 永勝寺 |
| | | 細形銅剣 | 平成 8 年 10 月 28 日 | 三潴町高三潴 25-2 | 個人 |
| | | 弓頭神社の考古資料　細形銅剣 1 口、石戈 1 口、石庖丁 2 個、耳環 7 個 | 平成 8 年 10 月 28 日 | 三潴町高三潴 528-1 | 弓頭神社 |
| | | 装飾古墳石材 | 平成 8 年 5 月 29 日 | 田主丸町田主丸 507-1<br>総合支所内 | 久留米市 |
| | | 横矧板鋲留短甲 | 平成 11 年 3 月 15 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米市埋蔵文化財センター | 久留米市 |
| | | 田主丸町寺徳出土の小型仿製鏡鋳型 | 平成 31 年 3 月 28 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米市埋蔵文化財センター | 久留米市 |
| | | 隈山 2 号墳出土の山梔玉 | 平成 31 年 3 月 28 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米市埋蔵文化財センター | 久留米市 |
| | | 高三潴遺跡出土の小銅鐸 | 平成 31 年 3 月 28 日 | 諏訪野町 1830-6<br>久留米市埋蔵文化財センター | 久留米市 |
| | 歴史資料 | 石書経碑 | 平成 11 年 3 月 15 日 | 田主丸町秋成 963 | 法音寺 |
| | | 弓曳き童子　附前川家文書 | 平成 26 年 12 月 12 日 | 諏訪野町 1830-6 | 久留米市 |
| | | 大川鉄道 4 号機関車 | 平成 26 年 12 月 12 日 | 三潴町高三潴 324-3 | 久留米市 |
| 有形民俗文化財 | | 山本郡・御井郡郡界標 | 昭和 49 年 4 月 25 日 | 山本町豊田 1-1 | 個人 |
| | | 藤吉天満宮の石造狛犬 | 昭和 49 年 11 月 1 日 | 大善寺町藤吉 810 | 藤吉天満宮 |
| | | 七木地蔵板碑 | 昭和 49 年 11 月 1 日 | 長門石五丁目 329-4 | 長門石町本村区 |
| | | 称名院の地蔵菩薩彫像板碑 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 大善寺町藤吉 719-2 | 称名院 |
| | | 日輪寺の地蔵菩薩彫像板碑 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 京町 279 | 日輪寺 |
| | | 医王寺の地蔵菩薩彫像板碑 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 寺町 35 | 医王寺 |
| | | 極楽寺の六地蔵菩薩図像板碑 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 上津町 2131-4 | 極楽寺 |
| | | 旧有馬別邸の十一面観音菩薩彫像板碑 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 合川町 1877 | 個人 |
| | | 岩井の地蔵菩薩彫像板碑 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 山川町字岩井川 50-1 | 個人 |
| | | 横馬場の地蔵菩薩彫像板碑 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 高良内町 392-2 | 個人 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 有形民俗文化財 | 中島の地蔵菩薩彫像板碑 | 昭和 57 年 5 月 25 日 | 大善寺町中津字上村 851 | 大善寺町中島区 |
| | 白口の地蔵菩薩彫像板碑 | 昭和 57 年 5 月 25 日 | 荒木町白口字西屋敷 1167 | 村持総代　外 2 名 |
| | 高樹神社の石造狛犬 | 昭和 59 年 6 月 29 日 | 御井町字神籠石 121 | 高樹神社 |
| | 庚申板碑 | 昭和 59 年 6 月 29 日 | 長門石 5 丁目 1-13 | 長門石町本村区 |
| | 肥前嶋境石 | 昭和 62 年 2 月 21 日 | 安武町武島 2282-3 | 個人 |
| | 碇石 | 昭和 62 年 2 月 21 日 | 長門石 5 丁目 1-13 | 長門石町本村区 |
| | 安武古町の市恵比須像 | 平成 7 年 4 月 24 日 | 安武町安武本 1325-8 | 個人 |
| | 府中の石造市恵比須像 | 平成 10 年 7 月 29 日 | 御井町 1-1 | 高良大社 |
| | 牛木神社の石造六地蔵塔 | 平成 9 年 10 月 1 日 | 城島町江上本 1767 | 牛木神社 |
| | 芦塚の石造阿弥陀如来坐像 | 平成 16 年 8 月 9 日 | 城島町芦塚 971-7 | 代表管理者 |
| | 浜天満宮の石造狛犬 | 平成 9 年 10 月 1 日 | 城島町浜 225 | 浜天満宮 |
| | 熊野神社の木造河童像 | 平成 11 年 3 月 15 日 | 田主丸町志塚島　熊野神社 | 志床区 |
| | 素盞嗚神社の木造河童像 | 平成 11 年 3 月 15 日 | 田主丸町志塚島　素盞嗚神社 | 唐島区 |
| | 宮地嶽神社の石造河童像 | 平成 11 年 3 月 15 日 | 田主丸町船越　老松神社 | 小川区 |
| | 遍照院の地蔵菩薩彫像板碑 | 平成 22 年 8 月 26 日 | 寺町 56 | 遍照院 |
| | 厨の地蔵菩薩彫像板碑 | 平成 24 年 9 月 21 日 | 東合川町字上 151-1<br>保管場所 / 諏訪野町 1830-6 | 久留米市 |
| 無形民俗文化財 | 若宮八幡宮の神幸行事 | 昭和 59 年 6 月 29 日 | 草野町吉木 2611 | 若宮八幡宮御神幸祭実行委員会 |
| | 須佐能袁神社の神幸行事 | 昭和 59 年 6 月 29 日 | 草野町草野 443-2 | 草野風流保存会 |
| | 八丁島の御供納 | 昭和 60 年 6 月 26 日 | 宮ノ陣町八丁島 | 八丁島御供納保存会 |
| | 高良山獅子舞 | 平成 10 年 7 月 29 日 | 御井町 212　高樹神社 | 高良山同志会 |
| | 御井町風流 | 平成 10 年 7 月 29 日 | 御井町 297　愛宕神社 | 御井町風流保存会 |
| | 柳瀬おくんち獅子舞 | 平成 5 年 7 月 7 日 | 田主丸町八幡 | 柳瀬おくんち獅子舞保存会 |
| | 十五夜さん大綱引き | 平成 22 年 8 月 26 日 | 大石町 23 | 満月会保存会 |
| 史跡天然記念物 | 目安町の一里塚 | 昭和 49 年 4 月 25 日 | 安武町安武本 3104-1 | 久留米市 |
| 史跡 | 東櫛原今寺遺跡 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 東櫛原町字今寺 1286-1 | 久留米市 |
| | 極楽寺古墳群 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 上津町字本山 2125-131　外 | 久留米市 |
| | 釜口古墳 | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 高良内町字釜口 4030-1 | 久留米市 |
| | 筑後国分寺跡<br>（講堂・塔及び回廊跡） | 昭和 56 年 6 月 1 日 | 国分町 711-1 | 日吉神社 |
| | 磨崖種子三尊 | 昭和 62 年 2 月 21 日 | 御井町 297-1 | 高良大社 |
| | 野瀬塚遺跡 | 平成 2 年 3 月 27 日 | 安武町安武本字野瀬塚 | 個人 |
| | 良積石 | 平成 5 年 11 月 17 日 | 北野町赤司 1218-1 | 久留米市 |
| 名勝 | 上野家庭園 | 平成 12 年 2 月 24 日 | 山本町豊田 1755-1 | 個人 |
| 天然記念物 | 福聚寺のイヌマキ | 昭和 53 年 6 月 24 日 | 合川町 2-1 | 福聚寺 |
| | 宮ノ陣の将軍梅 | 昭和 63 年 2 月 24 日 | 宮ノ陣町 5 丁目 9-11 | 宮ノ陣神社 |
| | 柳坂のアカメヤナギ | 平成 5 年 6 月 22 日 | 山本町豊田 1912-1 | 柳坂生産森林組合 |
| | 永勝寺のケンポナシ | 平成 5 年 6 月 22 日 | 山本町豊田 2141-1、2151、2155　（永勝寺豊田 2155、組合 1912-1 | 永勝寺・柳坂生産森林組合 |

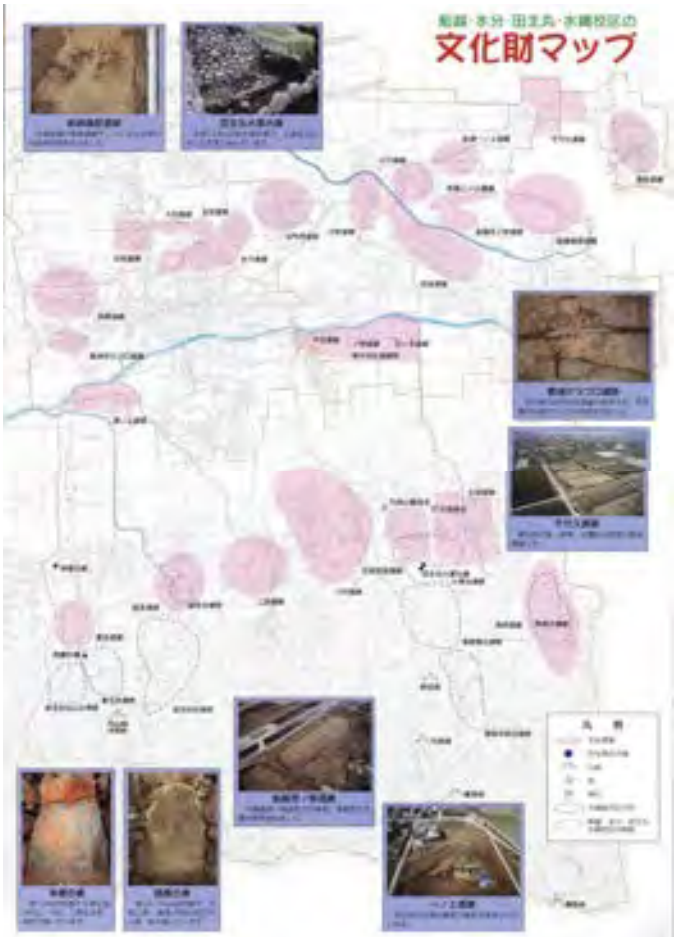
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 天然記念物 | 高良大社のツツジ群生地 | 平成 13 年 3 月 27 日 | 御井町 1-2 | 高良大社 |
| | 黒岩家のモチノキ | 平成 8 年 5 月 16 日 | 北野町高良 2386-1 | 個人 |
| | 安超寺の銀杏 | 平成 2 年 5 月 11 日 | 田主丸町森部 719-1　安超寺 | 個人 |
| | 阿蘇神社の樟 | 平成 2 年 5 月 11 日 | 田主丸町地徳 2808<br>阿蘇神社 | 個人 |
| | 八幡神社の樟 | 平成 2 年 5 月 11 日 | 田主丸町恵利 1173-1<br>八幡神社 | 個人 |
| | 観音寺のハルサザンカ | 平成 2 年 5 月 11 日 | 田主丸町石垣 275　観音寺 | 個人 |
| | 日吉神社の樟 | 平成 5 年 7 月 7 日 | 田主丸町上原 476　日吉神社 | 個人 |
| | ヒナモロコ | 平成 7 年 6 月 22 日 | 田主丸町内用水路 | |
| | 常行寺のモッコク | 平成 8 年 12 月 21 日 | 田主丸町豊城 1295　常行寺 | 個人 |
| | 法林寺の樟 | 平成 8 年 12 月 21 日 | 田主丸町田主丸 214-4<br>法林寺 | 個人 |
| | くじらの森樹木群 | 平成 15 年 5 月 12 日 | 田主丸町秋成 965 | 久留米市 |
| | 梅林寺のソテツ　附円盤碑 | 平成 23 年 9 月 21 日 | 京町 209 | 梅林寺 |

## 2）指定・登録されていない文化財の概要

本市では、小学校の校区ごとに埋蔵文化財包蔵地をはじめとして、文化財の調査を行い、「文化財マップ」としてまとめてきました。調査結果から、数多くの指定・登録されていない文化財の存在が確かめられました。

なかには、筑後川と巨瀬川沿岸の自然堤防に広がる集落遺跡や、耳納北麓につらなる古墳群、そのほか、古くからの面影を伝える石造物や道、歴史資料などがありました。

校区別文化財マップ




校区別文化財マップ（船越・水分・田主丸・水縄校区）

# 3．久留米市の歴史文化の特徴（たたき台）

久留米市の概要及び文化財の概要を踏まえ、歴史的・地理的な要素を背景とした久留米市の歴史文化の特徴を整理します。

1．久留米市の概要
（1）地理・自然的環境
（2）社会的環境
（3）歴史的環境
（4）文化的環境

2．久留米市の文化財
（1）これまでの経緯
（2）文化財の概要

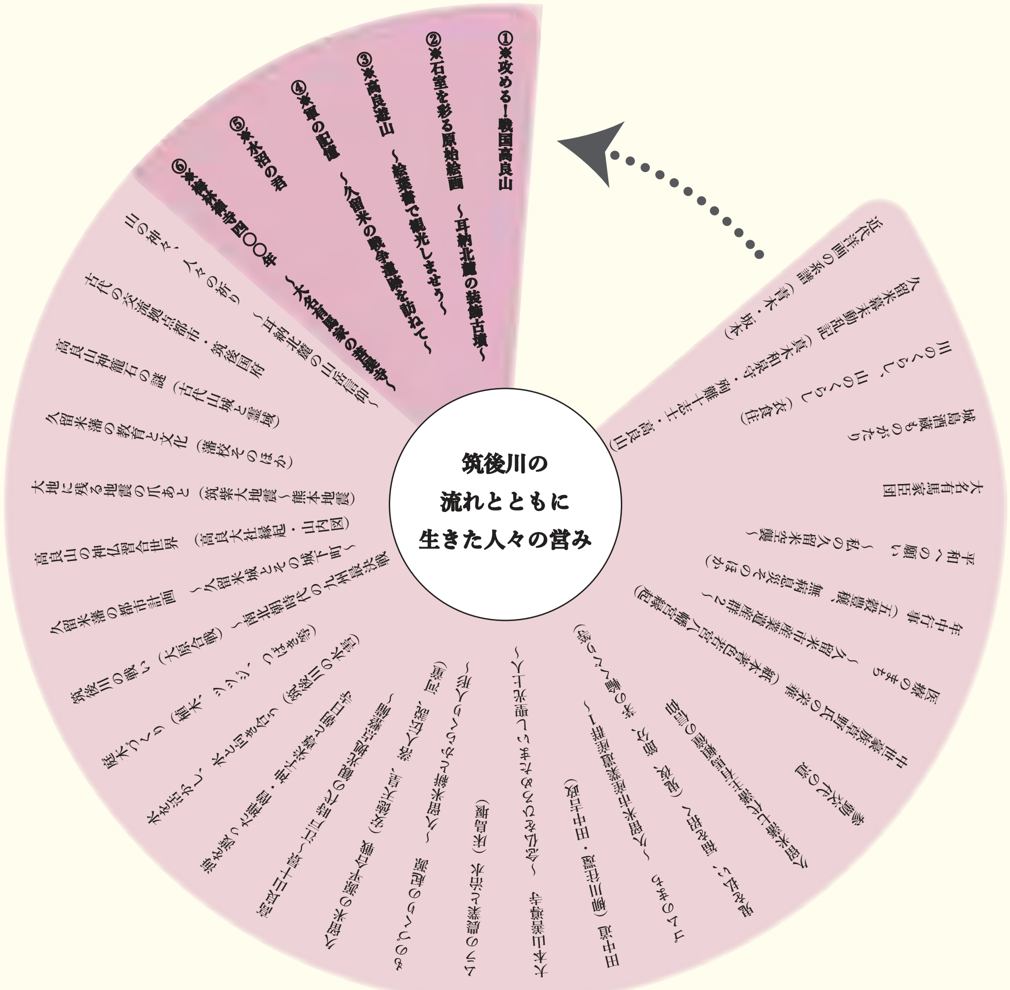
↓

- 筑後川水系で結ばれている
- 筑後の中心として発展してきた歴史に多くの偉人の活躍がある
- 多種多様な文化財が存在し、地域固有の様々なストーリーが語り継がれている
- 文化財を守り活かす市民が活躍している

↓

3．久留米市の歴史文化の特徴

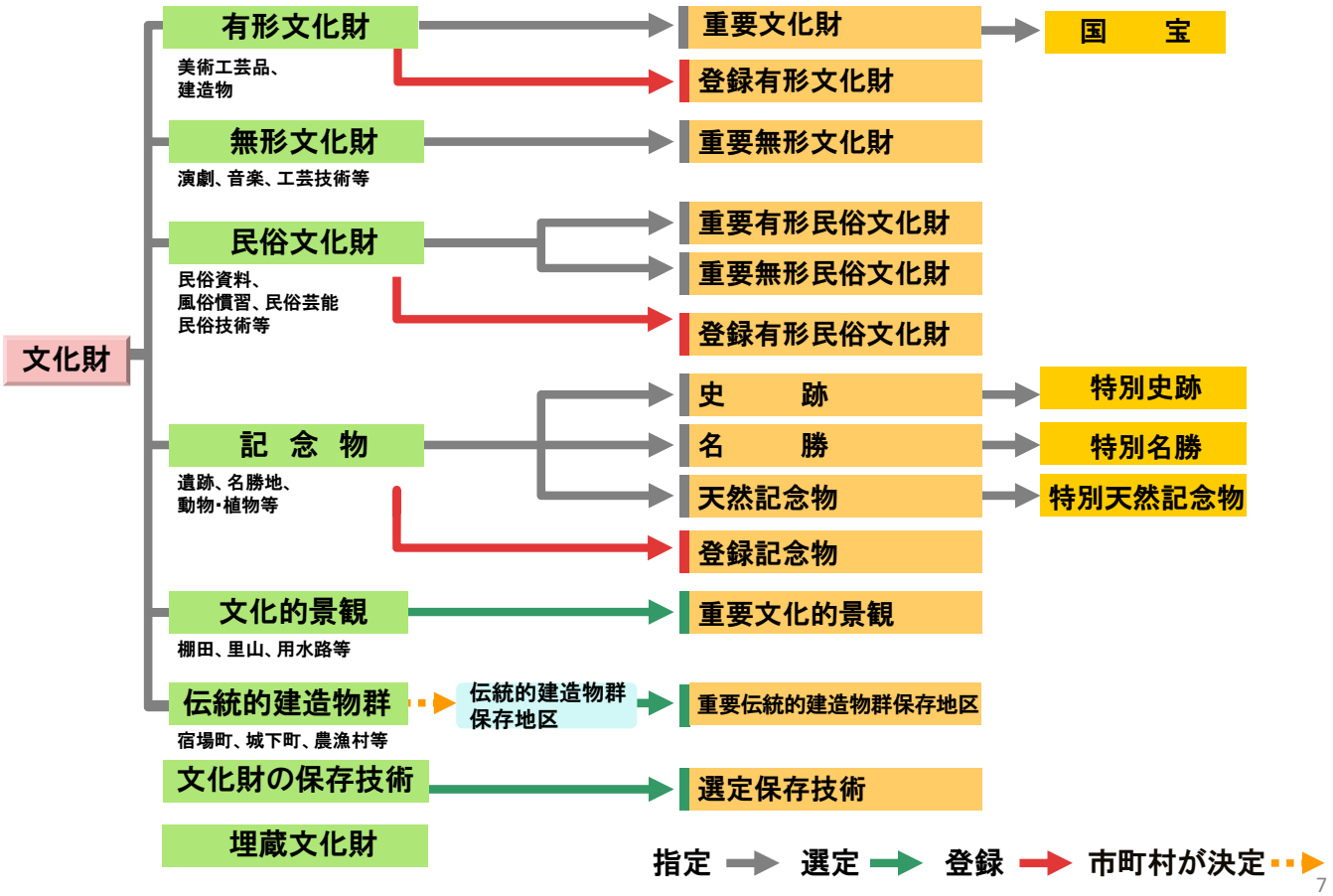
（仮）筑後川の流れとともに生きた人々の営み




※ストーリーシート制作済

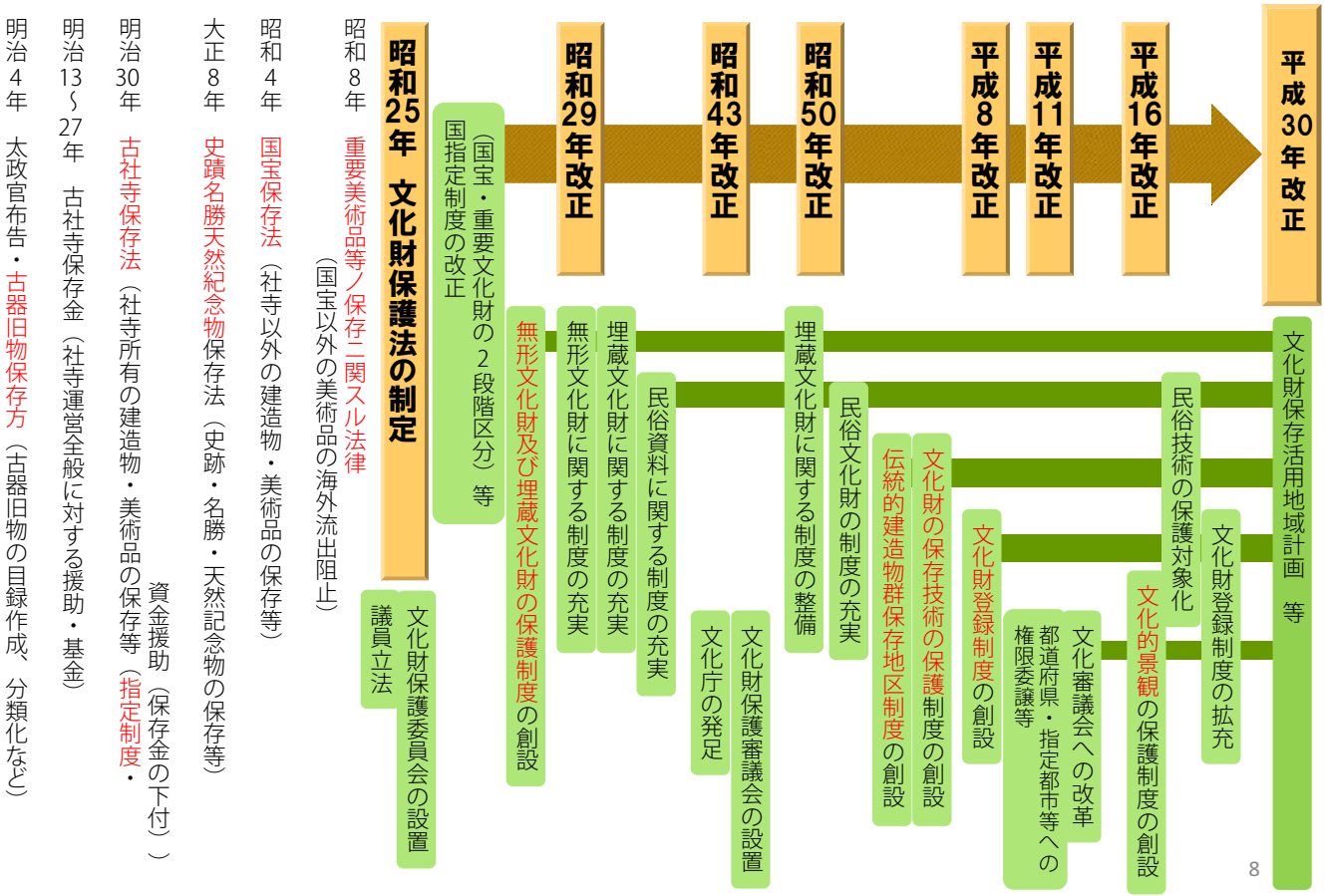
# 文化財保護の体系

赤枠内
文部科学大臣が指定・選定・登録する





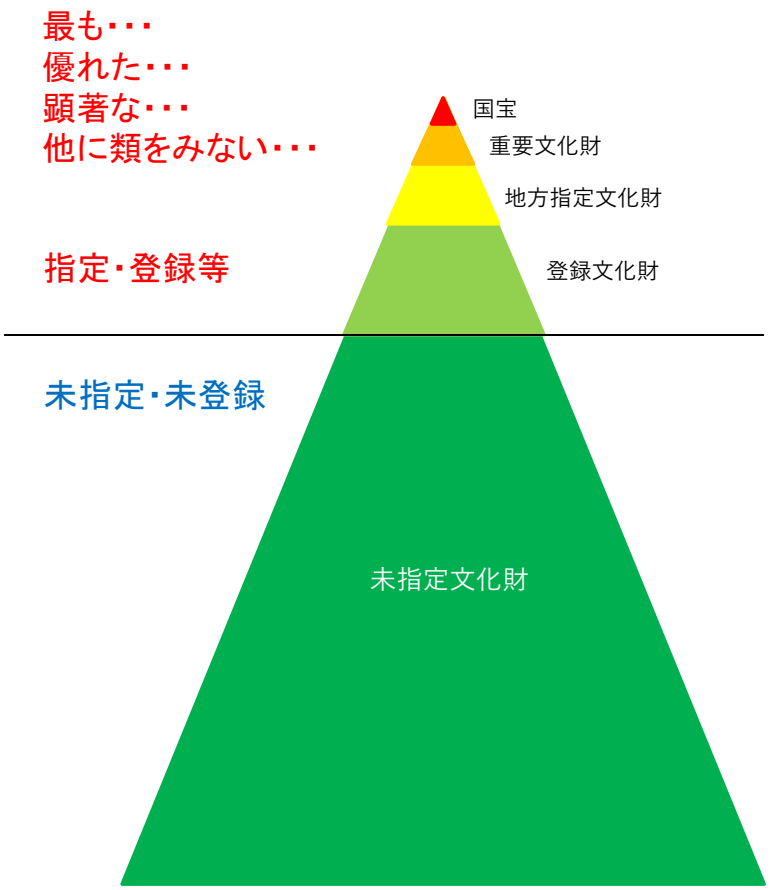

# 文化財保護制度の変遷



## 文化財保護行政の特徴

**文化財**

- **有形文化財**
  美術工芸品、建造物
- **無形文化財**
  演劇、音楽、工芸技術等
- **民俗文化財**
  民俗資料、風俗慣習、民俗芸能民俗技術等
- **記　念　物**
  遺跡、名勝地、動物・植物等
- **文化的景観**
  棚田、里山、用水路等
- **伝統的建造物群**
  宿場町、城下町、農漁村等




## 未指定の文化財の喪失

（出典：文化庁「文化審議会文化財分科会企画調査会報告書」平成19年10月）

### ○山口県萩市

1998年→2004年（６年間）

伝統的建造物　1,604棟→1,434棟（▲10.6%）

その他伝統要素（樹木・塀・垣など）
3,825件→3,460件（▲10.0%）

### ○東京都台東区谷中地区

住宅、店舗兼住宅などを中心とした「戦前のすまい」

1986年→2001年（15年間）　537棟→369棟（▲31.3%）

※「谷中地区まちづくり基礎調査研究」（平成14年3月）

### ○石川県金沢市

歴史的建築物

1999年→2004年（5年間）

市全域　21,496棟→19,037棟（▲11.4%）

まちなか区域　10,877棟→ 9,506棟（▲12.6%）

※調査：金沢市資産税課

上の例では、５年で約１０%の文化財が喪失

# 文化財を取り巻く環境

社会構造（産業・コミュニティ等）や価値観の変化
- 生活様式の変化による伝統的な生活習慣・風習の廃れ
- 日常における自然環境との関係が希薄に
- 伝統的な文化に対する理解・興味の欠如
- 開発による未指定文化財の喪失と景観の変化
- 首都圏への一局集中による地方の多様な歴史・文化の衰退

過疎化・少子高齢化による文化財保存・活用の担い手の不足
- 重文民家の個人所有者の平均年齢は７３歳前後
- 行事・祭礼・芸能など無形文化財の存続の危機
- 有形文化財においては、日常的な維持管理機能が低下
- 周辺環境の継承が困難
- 後継者の不足、産業として成立しない伝統技術の衰退
- 原材料確保の困難

人口減少による税収の低下
- 国、地方公共団体による支援の減少

地域主体の文化財の掘り起こしやまちづくりへの活用気運の高まり

例）
- 住民と自治体が協働して市民遺産を認定
- 企業やNPO等による歴史的建造物の活用を通じた地域活性化の取組
- 日本遺産認定ストーリーなどを活かした観光まちづくり

市民を巻き込み、社会全体で文化財を支える体制の確立が求められる